



パネルディスカッションを通じて地方紙の未来を考えた「新聞トーキングカフェ」=12日、デーリー東北新聞社

本社で新聞トーキングカフェ

地方紙の存在意義は

パネリストら意見交換

これからの新聞の役割は。デーリー東北新聞社は12日、地方紙の未来を考えるトークイベント「新聞トーキングカフェ」を八戸市の本社で開いた。「もし、新聞が明日からなくなったら…」をテーマに、パネリストらが地方紙の存在意義や今後の在り方を議論した。

(福田駿)

経済特集「エコノミック・マンデー(E.M.)」のグッドデザイン賞受賞と、本社公式キャラクター「デリオン」の誕生を記念して初めて開催。

パネルディスカッションでは、「金入」社長の金入健雄氏、八戸学院大学長補佐の玉樹真一郎氏、はちのへ未来ネット代表の平間恵美氏、フリーライターの石橋春海氏がパネリストとして招かれたほか、クリエイティブ戦略家の関橋英作氏がコーディネーターを、本社の荒瀬潔社長がコメントーターをそれぞれ務めた。このうち平間氏は、新聞

の読者が減ってきた理由について、インターネットで情報を入力する人が増加傾向にあると指摘。その上で、「スマホのニュースの題名を読んだだけで、記事を読んだ気分になっている人が多い」と、近年目立つ風潮に首をかしげた。

本紙の今後の方向性に関しては、玉樹氏が「記者の主観、客観という枠を超え、読者の共感を呼ぶレベルまで行ってほしい」とし、もっと読者に寄り添った新聞を目指すよう提言した。

会場では、多くの地域住民や本紙読者が、パネリストらの意見に耳を傾けた。パネルディスカッションに先立ち、本社報道部の今井崇雄次長がEMを発行した狙いなどを説明したほか、デリオンも紹介された。

※16日付本紙に詳細を掲載します

員4、5人や市教委担当者から聞き取りする方針を決めた。いじめ防止の体制などを確認するため、市小学校、中学校両校長会への聞き取りも行う。

新たな審議会の会合は3回目、委員6人全員が出席。非公開で行われた。

会合後、取材に応じた野村会長によると、聞き取りの内容は、いじめ問題の発生時に学校側がどう対処することになっていったか、りまささんの自殺を巡ってどのような対応を取ったのか、

また、いじめ対策全般について考える必要があることから、小学校、中学校の両校長会から生徒指導の在り方などを確認する。審議会は2月中旬までに学校や遺族らへの聞き取りを終え、予定通り3月までの報告を目指す。野村会長はスケジュール的には余裕がないとの見方を示しながら、「予定の3月に、ふさわしい日程を進めていく」と話した。

(稲村安莉)